

人間社会学部

試験問題冊子

(3月入試 3月5日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークすること。
なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 ～ 14 のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

個人主義に適した回避型

社会の近代化は、産業化や都市化という社会の構造的な変化をもたらしたただけではなかった。そこで暮らす人々の内面的な価値観やメンタリテイの変化を同時にもたらしこたになった。その一つは、個人主義の浸透である。個人の自由や自己実現に大きな価値をおく個人主義社会では、共同体といえども、個人を束縛すべきではないと考える。国や故郷のために身を賭して奉仕することなど論外で、個人主義がさらに徹底していくと、家族や配偶者、さらには子どものためであつてさえも、自分が犠牲になる必要はないと考える。

誰もが自分のことを優先する社会にあつては、自分より他人を優先する人は生き残りに不利である。生き残るためには自分のことだけを考え、家族であつても、大切に思ひすぎない方が有利なのである。家族を大切にしない生き方は、自分の子孫を残すうえでは不利かもしれないが、個人主義にとっては、個人がすべてである。子孫が繁栄するかどうかや家族が喜ぶかなどは、大して重要でなく、その人自身が、幸福かどうかすべてである。

こうしたことを書くと、少し極端なのではないかと思われるかもしれないが、現実には、もっと極端なことが起きている。a、最近相談という形でよく出会うのは、親の育て方が悪かったとして、子どもが多額の金銭を要求するケースだ。子どもから、金を払わなければ殺すとか死ぬといって脅されて、泣く泣く老後の資金として蓄えていたお金を支払ったケースもある。借金までして、それでも支払いきれず、危害を加えられることを恐れて、親の方が夜逃げをしたというケースさえある。

そんな事態になれば、b と思いたくなるだろう。

逆に親の方も親の方で、それまで跡継ぎや秘蔵っ子として可愛がっていた子どもが思う通りにならなくなると、生活費を与えることをケチり始め、家の立ち退きを要求し、訴訟沙汰になることもある。自分に刃向かったわが子には一銭も与えず、自分の思い通りになる存在を、これみよがしに養子に迎えて、そちらに全財産を残そうとすることもある。

それなら最初から、子どもなどに期待して可愛がったりしなければよかったのにと思う人もいるだろう。

個人主義が行き着くところまで行き着けば、親子でさえ、いつ何時、慰謝料や損害賠償をめぐる対立する被告と原告にならないとも限らない。わが子を大切に育てたつもりでも、虐待されたと訴えられるかもしれないし、親の方も、そんな危険を冒してまで子育てするのは、ますます割に合わないと思うかもしれない。

わが子でさえ、そのありさまだ。ましてや他人に過ぎない夫婦など、いつ盗人に変貌

するか知れたものではないと、暗澹たる思いになる人もいるだろう。

実際、愛の始まりは甘美な夢だが、終わるときは無残なものだ。結婚して子供がいるという場合には、倒産した会社に借金取りが群がるように、なけなしの財産の奪い合いが始まる。将来の給与まで差し押さえられたも同然で、養育費や慰謝料に首が回らなくなっている人も少なくない。また、逆に、約束した養育費の支払いも反故にされ、女手一つでわが子を養うために、身を粉にして働いている女性も大勢いる。

最初から他人の親切や愛情など期待しない回避型の生き方は、無駄な夢をみないだけ、裏切られることもないと言えるだろうか。冷たい個人主義社会は、寒冷な山岳地帯のように殺伐としている。そこにうまく適応して生き残れるためには、他人の優しさや温もりなど必要としない心と体をもつことが一番なのか。

周囲を見渡す限りでは、人類は、どうやらその方向に進化を遂げようとしているようだ。

c

主体的な意欲というものは、本人が関心をもつことに取り組む中で、少しずつ育まれていくものである。ところが、実際に子どもがする体験というものは、昔に比べると、画一化され、狭くなっている印象がある。何に関心があるかを、どの子どもに聞いても、実に同じような返事しか返ってこない。

たとえばしっかり管理された家の子どもの場合、塾やその宿題に多くの時間を奪われ、わずかの余暇は、ゲーム、アニメやマンガ、ネットの動画に費やされる。勉強をしているか、画面をみているか。子どもが社会性を育んだり、関心のあることを深めたりする暇は、なかなか見当たらない。

全国どこに行っても同じような店が立ち並んでいるのと同じように、どこに行っても同じような思考や行動パターンの子どもたちしか出会わない。好きなことや興味のあることを聞いても、同じような答えしか返ってこない。その画一性は、怖くなるほどだ。溢れかえる刺激も、多様なようでいて、それは見せかけの多様性であり、本当に新鮮な体験をする機会は少なくなる一方に思える。なぜなら製品やサービスとしてパッケージ化された、複製可能な体験は、真の主体的体験^ウとは言えないからである。

しかも、ITメディアの発達により、膨大な情報にさらされつづけるため、情報過負荷になってしまふ。情報過負荷な状態に置かれると、人は主体的に考え、行動することが難しくなる。肝心な情報がどれか見分けることができなくなり、たまたま目に入った情報に、場当たりに判断や行動を左右されやすくなる。

さらに、情報過負荷な状態が続くと、無気力や無感情といった状態を引き起こす。パソコンやスマートフォンを十五時間くらいやり続けたことがある人なら、覚えがあるだろう。新鮮な興味や意欲などといったものは、消え果ててしまふ。それが長期にわたって続けば、何が起きるかは想像に難くない。中年世代でも、現実的な課題に対する気力が低下しているとき、しばしばスマホをやりすぎだったというケースが目立つようになっていく。現実回避とITメディア依存が結びつくことで、回避が泥沼化するケースも増えている。

高度な情報処理装置である脳をもつ人間だからこそ、情報革命の前と後では、種が異なるほどの影響を免れないだろう。

回避と心理的アレルギー

さしたる理由もないのに、学校に行くのが面倒だったり、気が進まなかったりする要因として、学校に対する心理的なアレルギー反応が生じていることが多い。この「学校アレルギー」は「学校恐怖」とよばれるもののほど、絶対学校に行けないというわけではないのだが、できれば行くのを避けるという方向に、いつのまにか行動を支配する。無理をして行ったとしても、苦痛が次第に大きくなって、やがて足が遠ざかるということを繰り返しやすい。

学校はどうしてもダメだが、アルバイトには平気に通えるという人も多く、こうなると別に集団がダメというわけでもなく、ただ学校アレルギーとしか言いようのない状態だ。学校アレルギーの人にとっては、学校時代が一番つらい時代ということになる。それゆえ、学校を離れると、すっかり人生が好転し、澁刺と本領を発揮し始める人もいる。回避という現象を考えると、すっかり人生が好転し、心理的アレルギーとしてとらえることもできるだろう。トラウマによって起きた恐怖症というほどではないが、心に不快感や抵抗が生じてしまうのである。花粉症の患者が増えて困っているように、多くの人が心理的アレルギーを抱えやすくなっているのだろうか。もしそうだとしたら、なぜ心理的アレルギー体質の人が増えているのだろう。

(岡田尊司 『生きるのが面倒くさい人―回避性パーソナリティ障害』より一部改変)

問1 傍線部ア「内面的な価値観やメンタリティの変化」が示す内容として最も適当でないものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

1

- ① 子どもの幸せのため自分の気持ちや欲求を我慢する。
- ② 自分の幸福を一番に考える。
- ③ 子どもが思い通りにならなければ養子を迎える。
- ④ 家族を大切には思わない。

問2 空欄 a に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

2

- ① さらに
- ② または
- ③ そのため
- ④ たとえば

問3 空欄 b に当てはまる文として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

3

- ① 何のために貯金をしてきたのか
- ② 個人主義にも困ったものだ
- ③ 何のために子どもを育てたのか
- ④ 子どもよりも自分の方が大切だ

問4 傍線部イ「その方向」の内容として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

4

- ① 個人と個人が衝突する時代
- ② 家族であつても財産をめぐつて争う社会
- ③ 自分よりも他人を優先する生き方
- ④ 他人の親切や愛情など期待しない心と体

問5 空欄「c」に当てはまるこの節のタイトルとしても最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

5

- ① 多様性と情報過負荷
- ② 体験の画一化と失われる主体性
- ③ スマートフォンの悪影響
- ④ 子どもたちの変化

問6 傍線部ウ「真の主体的体験とは言えない」と筆者が考える理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

6

- ① 主体性を育むはずの体験が画一化された体験であるため。
- ② 子どもが管理されることが多くなったため。
- ③ 情報が溢れかえり肝心な情報がわからなくなるため。
- ④ ゲーム、アニメや漫画、ネットの動画は受身的な余暇であるため。

問7 本文の内容に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

- ① 集団がダメという集団回避から来る「学校アレルギー」の人が増えている。
- ② 情報革命後の現代では、現実的な課題に対する気力が低下し回避行動が泥沼化する傾向にある。
- ③ トラウマによって起きた恐怖症から回避する行動をとるのは心理的アレルギーとして捉えることもできる。
- ④ 個人主義社会では子どもの体験が画一化されているため主体的な意欲が育まれにくい。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

熱意の欠如の主な原因の一つは、自分は愛されていないという感情である。反対に、愛されているという感情は、ほかの何ものにもまして熱意を促進する。人は、さまざまな理由で、自分は愛されていないという感情を持つことがある。自分はひどくいやな人間なので、だれも自分を愛してくれない、と思うかもしれない。子供のころに、ほかの子供に与えられるよりも少ない愛情の分け前で我慢しなければならなかったかもしれない。あるいは、実際、だれにも愛されないような人間なのかもしれない。しかし、この後者の場合、原因はたぶん、幼いころの不幸がもとで自信を喪失していることにあるのだと思われる。自分は愛されていないと感じる人は、その結果、さまざまな態度をとることがある。彼は、たぶん並みはずれた親切な行為によって、愛情を得るための必死の努力をするかもしれない。しかし、こんなことをしても、まず成功の見込みはない。なぜなら、その親切な行為の動機は、受益者にやすやすと見破られるからだし、また、人間の性質というものは、愛情をいちばん要求しないように思われる人にいちばん進んで与える、というふうなしくみになっているからである。だから、親切な行為によって愛情を購^{あがな}おうと努める人は、人間の忘恩を経験して幻滅することになる。彼^アが購^{あがな}おうとしている愛情は、その代価として差し出す物質的な利益よりもはるかに価値あるものだということが、彼の胸にとんと浮かんでこない。にもかかわらず、実はまさにそのとおりだという感情が、彼の行動の根底にひそんでいるのである。別な人は、自分が愛されていないことを見てとると、戦争や革命をあり立てたり、スウィフト主任司祭のように毒筆^{ふで}を揮^{ふる}ったりして、世間に復讐しようとするかもしれない。これは、不運に対する英雄的な反応であり、全世界を敵に回して闘えるほどの強い性格を必要とする。そういう高さにまで達しうるのは、ほとんどいない。男女を問わず、大多数の人びとは、自分が愛されていないと感じると、臆病な絶望の中に沈みこんでしまい、ただ、ときどき、ねたみや悪意をちよつぱり示すことでうつぶんを晴らすようになる。そういう人びとの生活は、概して、極端に自己中心的になり、愛情のないことが彼らに不安感を与える。そして、本能的にその不安感からのがれようとして、生活が完全に習慣に支配されるのを許してしまう。というのは、われとわが身を変化のないおきまりの生活の奴隷にする人たちは、一般に、冷たい外の世界に対する恐怖と、いつもと同じ道を歩いてさえいれば外の世界と衝突することはあるまいという感情にかられて行動するからである。

安心感をいだいて人生に立ち向かう人は、不安感をいだいて立ち向かう人よりも、格段に幸福である——少なくとも、なまじ安心感が強すぎて災難に陥るようなことがないかぎりには、そうだ。また、いつもではないにせよ、非常に多くの場合、安心感のおかげで、ほかの人なら圧倒されてしまうような危険をまぬがれることもできる。かりに、あなたが狭い板の上を歩いて深い割れ目を渡っているとしたら、こわいと思わない場合よりも、こわいと思った場合のほうが、ずっと落っこちる見込みが a。同じことは、生き方についてもあてはまる。もちろん、恐れを知らない人も、不慮の災難にあうかもしれない。しかし、たぶん、臆病な人間ならひどい目にあうような多くの困難な状況を、けがひとつしないで切り抜けることだろう。こうした役に立つたぐいの自信には、もちろん、無数の形がある。甲は山で自信を持ち、乙は海で、丙は空中で自信を持っている。

しかし、人生に対する一般的な自信は、ほかの何にもまして、正しい愛情を、必要なだけ、ふだん与えられているところから生まれる。私がこの章で話題にしたいと思うのは、熱意のひとつの源と考えられるこうした精神の習慣である。

こうした安心感を生み出すのは、人から受ける愛情であって、人に与える愛情ではない。もちろん、安心感は、とりわけ相互的な愛情から生じる。厳密に言えば、こういう結果は、愛情だけではなく、称賛によってもたらされる。一般大衆の称賛を勝ち得ることを商売としている人びと、たとえば、俳優とか、説教者とか、講演家とか、政治家とかは、ますます拍手かっさいに頼るようになる。一般大衆の称賛という正当な報いを受けるとき、彼らの人生は熱意にみちあふれる。称賛を受けないときは、彼らは不満をいだき、自己中心的になる。少数者の一段と集中した愛情がほかの人にしてくれることを、大衆の拡散した好意が彼らにしてくれるのである。両親にかわいがられている子供は、両親の愛情を自然のおきてとして受け入れる。両親の愛情は、子供の幸福にとって非常に重要であるけれども、子供はそのことをあまり考えない。子供が考えるのは、世界のこと、出くわす冒険のこと、おとなになったときに遭遇する一段とすばらしい **b** のことである。 **c**、こういうすべての外的な興味の背後には、災難に出あえば両親の愛情によって守ってもらえるという感情がある。何かの理由で両親の愛情を与えられていない子供は、臆病で、冒険心がなくなる恐れがある。恐怖と自己に対するあわれみにみたされ、もはや、陽気な、探険の気分で世界に立ち向かうことができなくなる。そういう子供は、驚くほど幼いころから、人生だの、死だの、人間の運命だのについて黙想しはじめることがある。彼は内向的な人間になり、最初はうつうつとして楽しまないだけだが、ついには、何か哲学や神学の体系の中に非現実的な慰めを求めるようになる。世界はめちゃくちゃな場所であって、楽しいことと不愉快なことがたまたまめな順序で含まれている。だから、世界をわかりやすい体系とかパターンとかにまとめたという欲求は、突きつめてみれば、恐怖の所産であり、実は、広場恐怖症の一種にほかならない。臆病な学生は、四つの壁にとりかこまれた自分の書齋にいれば安全だと感じている。もしも、この宇宙も同じように整然としているのだ、と自分に納得させることができれば、思いきって街中へ出ていかなければならないときにも、ほとんど同じくらい安全だと感じられるはずである。そういう人も、愛情をもっとたくさん受けていたら、現実世界をそれほど恐れなかっただろうし、また、それに取って代わる理想の世界を、信念の中で作り出さなくてもよかっただろう。

(ラッセル『幸福論』より一部改変)

問1 傍線部ア「彼が購おうとしている愛情は、その代価として差し出す物質的な利益よりもはるかに価値あるものだ」とあるが、このように筆者が考える理由として、最も適当なものを次の①～④の中から一つ選びなさい。

8

- ① 全世界を敵に回して闘えるほどの強い性格を持つ人こそが、愛情を受けるに値するから
- ② 不安感をいだいて人生に立ち向かう人の差し出す利益は、価値が低いから
- ③ 人間は、愛情をいちばん要求するように思われる人に、進んで愛情を与える性質をもっているから
- ④ 愛情を得ようとして行う親切な行為は、受益者にやすやすとその動機を見破られるから

問2 空欄 a に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

9

- ① 低い
- ② 無い
- ③ 有る
- ④ 高い

問3 傍線部イ「こうした精神の習慣」の意味として最もふさわしいものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

- ① 安心感を抱き自信を持って物事にのぞむこと
- ② 愛情を得るために親切な行為を積極的におこなうこと
- ③ 常に一般大衆の称賛を勝ち得ていくこと
- ④ 自己中心的で心に不満をいだいていること

問4 空欄 b に当てはまる語句として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

11

- ① 情熱
- ② 恐怖
- ③ 冒険
- ④ 探検

問5 空欄 c に入る最も適当な語句を、次の①～④の中から一つ選びなさい。

12

- ① さらに
- ② すなわち
- ③ しかし
- ④ なぜならば

問6 傍線部ウ「臆病な学生は、四つの壁にとりかこまれた自分の書斎にいれば安全だと感じている」とあるが、臆病な学生がそう感じる理由について最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

13

- ① 書斎は、一定の秩序に従ってきちんと整えられている空間だから
- ② 書斎は、非現実的な慰めを好きにだけ熟考していられる空間だから
- ③ 書斎は、非現実的な恐怖からくる広場恐怖症を感じる空間だから
- ④ 書斎は、宇宙と同じ一定の体系の中にある一つの空間だから

問7 本文の内容と最も合致するものを①～④の中から一つ選びなさい。

14

- ① 人から受ける愛情は、人に与える愛情や、相互的な愛情よりも、安心感を生み出す要因になっている。
- ② 多くの人は愛されていないと感じると極端に自己中心的になり、生活が習慣に支配されるようになる。
- ③ 世界はめちゃくちゃな場所であり、楽しいことと不愉快なことがでたらめな順序で含まれているゆえに、哲学や神学の中に非現実的な慰めを求めるようになる。
- ④ 愛されていないと感じる人は、愛情を必死で求めることによって代価を得ようとする。

(以上)